



松ヶ崎だより

学校評価特集号

京都市左京区松ヶ崎堀町 40
TEL.075(781)3380 / FAX.075(781)3252
<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=108201>



令和3年 10月27日
京都市立松ヶ崎小学校
校長 土井 則夫



本年度前半を振り返って

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは学校評価の一環として、子どもアンケートとともに実施しています。本号では、アンケートの結果と、結果をもとにした自己評価についてダイジェストでお伝えします。

<アンケート調査の概要>

対象	調査期間	対象数	集計数
子ども	6月21日(月)～25日(金)	329名	325名(98.8%)
保護者	6月21日(月)～28日(月)	329名	312名(94.8%)

<アンケート調査の特徴>

下記の2点について、昨年度から引続き調査を行いました。

- ・ 協働的に問題解決していく力を育むうえで必要な、学習の基盤となるルールづくりや人間関係づくりの取組について問う項目
- ・ 松ヶ崎小学校として大切にしていける習慣として、「あいさつ」と「はきもの」に関する取組について問う項目

<アンケートをもとにした自己評価の流れについて>

- ① 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成 という3つの視点で教職員にもアンケート調査を実施(7月)
- ② アンケート結果をもとに成果と課題を明らかにし、課題の解決に向けた取組を教職員で話し合うための研修会を実施(7月)
- ③ 自己評価の中身について、学校運営協議会に説明。学校運営協議会から、自己評価に対する意見と評価(10月20日)
- ④ 成果と課題、課題の解決に向けた取組をまとめた「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」を作成(10月)

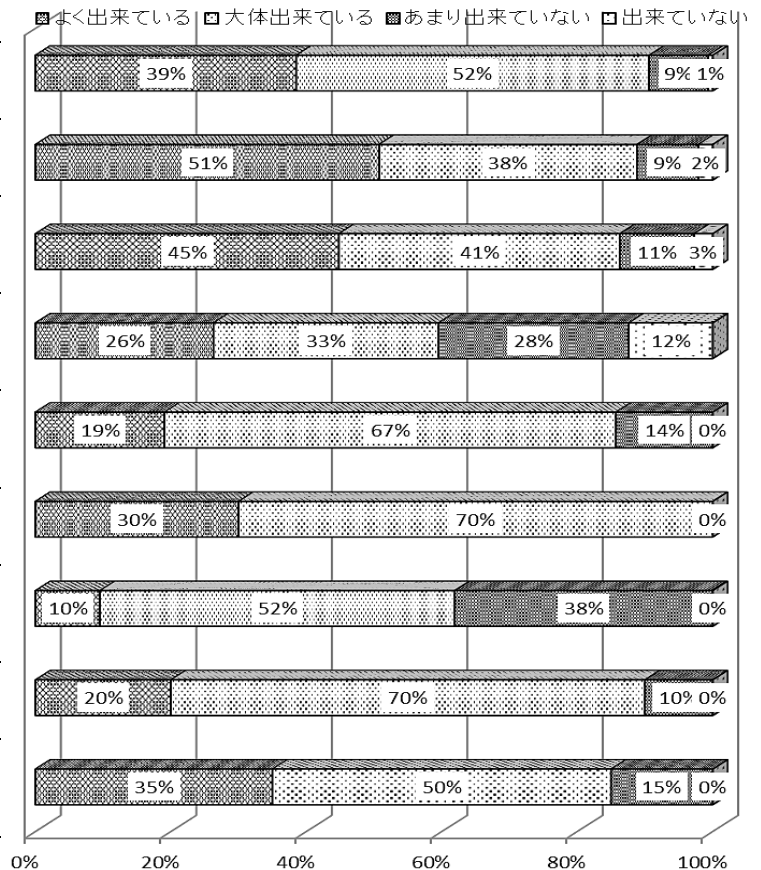
<ダイジェスト版の見方>

保護者・子ども・教職員アンケートの結果を、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成という3つの視点に分けて、グラフで示しています。紙面の関係上、保護者や子どもアンケート結果のすべてをのせることができません。保護者アンケート、子どもアンケートの結果については、ホームページ上に公表する予定です。また、研修会を経て作成した「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」についても、ホームページ上に公表予定です。

学校運営協議会からの評価は、本日配布のコミュニティ・ニュースに掲載します。

「確かな学力」の育成に向けて

保	子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。
子	授業がわかりやすく、楽しい。
子	話を聞くときは、相手を見て、最後まで静かに聞いている。
子	発表するときは、友だちの発表に付け足したりつなげたりしている。
教	目を見て聞く、うなずいたりあいづちを打ったりして聞くという指導を徹底する。
教	学習規律について、学校全体で指導する。
教	共に学び合うことのよさを子どもが実感できるように、子どもと子どもの発言をつなぐ。
教	一人あたりの「書く」「話す」量を確保する。
教	毎時間の授業の中で、単語でなく文で発言する習慣をつける。



<アンケートから見てきた成果(○)と課題(●) 課題の解決に向けた取組(□)>

学び合いの基盤となる学習規律

- 「学習のきまり」への意識は教師も子どもも意識できており、守れている。
- チャイムを守ったり、学習準備をしたりする習慣がついている。
- コロナ禍の中で、グループ学習がうまく進められないことがあった。
- 発表の仕方について、学級・学年で基準を決めて指導していく。
- 学習規律について、教師が意味をしっかりと伝え、掲示物で示して子どもへの定着を図る。

2. 子ども同士の発言がつながる授業

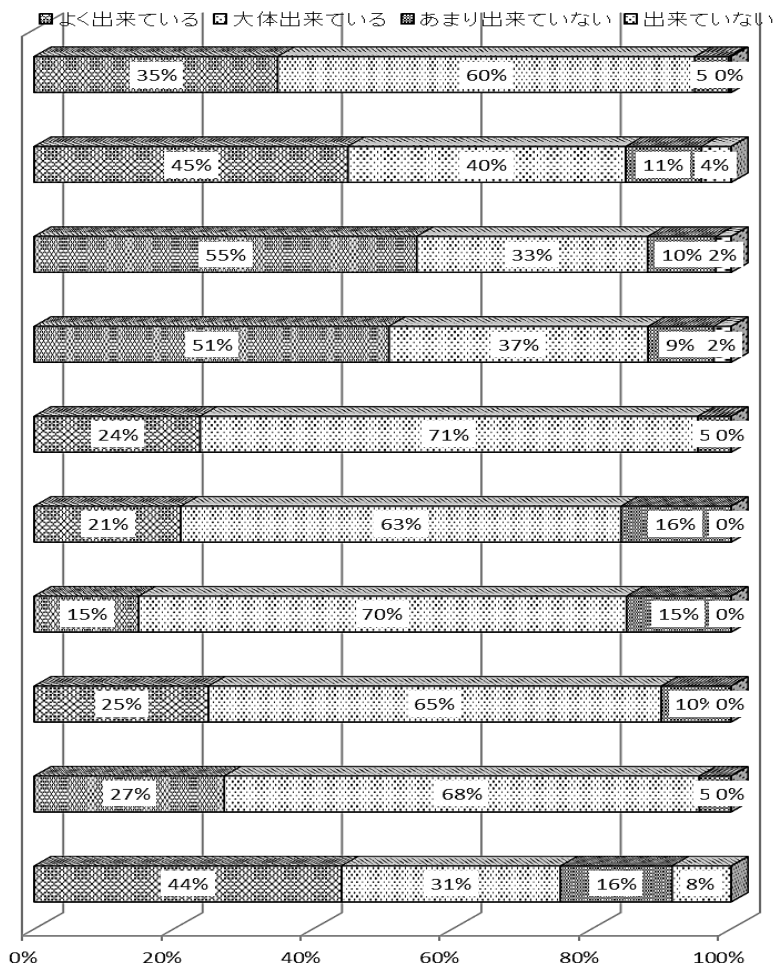
- 発表する子としない子の二極化が見受けられる。
- 発表が「同じ」か「違う」だけで終わってしまうことが多い。
- 「発表につけたし、つなげる」授業を構築していく。
- 研究授業で具体的な発言がつながる姿を皆で共有する。
- 「話す」ことだけではなく、「聞く」ことの大切さについても指導を続ける。

3. 「わかる」「楽しい」授業

- タブレット使用により、学びが充実した教科がある。
- ICT活用や掲示物作成機器の向上によって、視覚支援が効果的に行えている。
- わからないと感じている子への適切な対応がまだ十分ではない。
- 学習内容がわかるだけではなく、子ども達が主体的に学習に向かう姿勢が見られるような、楽しい授業を研究していく。

「豊かな心」の育成に向けて

保	子どもたち一人一人の活躍の場を与えられている。
子	先生は、私のよいところやがんばっているところをほめてくれる。
子	誰に対しても、自分から進んであいさつをしている。
子	はきもの（くつ、トイレのスリッパ）を揃えている。
教	子どもの行動をほめるだけでなく、価値を伝える。
教	学級には、コミュニケーションや人間関係に関するルールがあり、子どもたちに浸透している。
教	「あいさつ」と「はきもの」にこだわって指導し続ける。
教	子どもたち一人一人の活躍の場をつくる。
教	すべての子どもが安心できる教室・学校をつくる。
子	自分には良いところがある、と思いますか。 ※（本年度追加項目）



<アンケートから見てきた成果（○）と課題（●） 課題の解決に向けた取組（□）>

1. 「あいさつ」「はきもの」

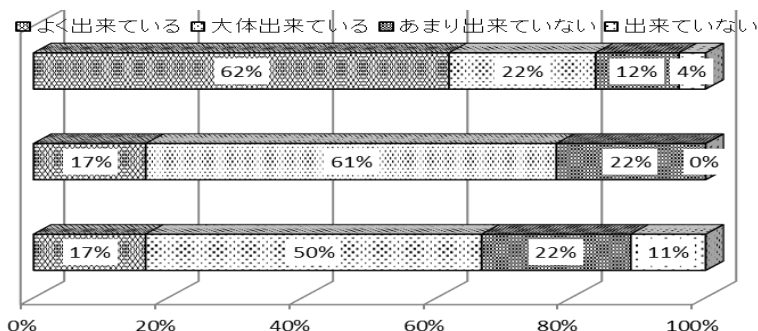
- 朝のあいさつが以前よりも出来るようになってきている。
- 靴箱の靴がいつもきれいに揃っている。
- トイレのスリッパが乱れていることがある。
- 子ども同士のあいさつが自然にできていない。
- 出来ていることはきちんと褒め、課題のある部分についても具体的に伝え指導する。
- あいさつを進んで行い、はきものの乱れに気付けば揃えるなど、教職員が手本となるように行動する。

2. 子どもの行動への価値づけ

- 一人一人の良さを伝え、まわりの友達からも認められるような学級づくりを進められた。
- 子どもという時間を大切に毎日を過ごせた。
- 安心してすごせる学校づくりを進められた。
- 子どもの良いところや頑張っているところを、すぐに伝えることが出来ていなかった。
- 自分には良いところがある、と思えていない子がいる。
- 自己肯定感の低い子を把握し、集団での自己有用感を高められる活動を実践していく。
- 教職員は子どもが主役という意識を常にもち、一人一人が活躍できる場面をつくる。
- 頑張っている子や成長した姿を見せた子を積極的にほめる。

「健やかな体」の育成に向けて

子	外遊びなどで、進んで体を動かしている。
教	体育の授業の中に、柔軟性を高める運動や遊びを入れる。
教	いろいろな遊びを子どもに広める。



<アンケートから見てきた成果(○)と課題(●) 課題の解決に向けた取組(□)>

- 休み時間に外で遊ぶ時間が制限されたが、外遊びする子の数は増えている。
- 遊びの時間が減って、体力の低下が懸念される。
- 学級で行う体を使った遊びを通して、子ども同士の関係を作っていく。
- 年間を通して健康や安全についての指導を行う。

自由記述から

ご多用の中、自由記述欄にもご意見をいただき、本当にありがとうございました。いくつか、紹介します。

日々の学習について

楽しく学校で過ごせている、先生に褒められたことを喜んで家で話している、担任の先生の授業が分かりやすく楽しい、教科担任の先生の授業も喜んでいる、タブレットでの学習が新鮮で良い、参観がないので子どもの様子がわからない、という声をいただきました。

学校行事について

宿泊学習は可能な限り実施してほしい、参観の機会を増やしてほしい、クラブ活動を楽しんでいる、行事をオンライン視聴できるようにしてほしい、行事が次々と中止になっているが工夫して教育活動を続けてもらいたい有り難い、という意見をいただきました。

学級通信やホームページについて

先生の思いがわかる学級通信を毎号楽しみにしている、参観できなくて残念だがホームページで学校の様子がわかる、ホームページの写真を見て子どもと学校の様子を話しているという声をいただきました。

アンケートについて

参観がないのでアンケートの質問項目に回答しにくい、学校評価アンケートのWEB実施を希望する、という意見をいただきました。

ご意見ありがとうございます。紹介できなかったご意見も含めて、お答えできるものについては、個人懇談の場などでもお伝えしました。

ご家庭・地域の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染拡大防止という制限のある中での日々の教育活動を支えていただきありがとうございます。引き続き、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。